

資料編

1 海外交流・国際平和関係

(1) 友好姉妹都市等の沿革

① 蘭州市（中華人民共和国^{かんしゅうくしやう}甘肅省）

【基礎データ】

● 中華人民共和国（外務省ホームページより）

| | |
|----|--------------------------------|
| 面積 | 960万 km ² （日本の約25倍） |
| 人口 | 約13億人 |
| 首都 | 北京 |
| 人種 | 漢民族（総人口の92%）および55の少数民族 |
| 言語 | 漢語（中国語） |
| 宗教 | 仏教・イスラム教・キリスト教など |
| 政体 | 人民民主共和制 |
| 通貨 | 人民元 |

● 蘭州市（蘭州市ホームページより）

| | |
|------|------------------------------------|
| 面積 | 13,085.6km ² （秋田市の約14倍） |
| 人口 | 322万人（秋田市の約10倍） |
| 経度 | 北緯 35度 5分 |
| 緯度 | 東経 102度30分 |
| 時差 | -1時間 |
| 主な経路 | 空路で成田から北京まで約4時間、 北京から蘭州まで約2時間 |



【都市の紹介】

蘭州市は、1400年余りの歴史があり、かつては、中国と地中海世界を結ぶ歴史的な交易路であるシルクロードの要衝として栄えました。1667年に甘肅省の省都に定められています。

蘭州市の産業は、恵まれた地下資源を背景に工業が発達しており、市内には精油、石油化学工業、金属、鉄鋼、製紙等の工場が数多くあります。

農業は、穀類、葉たばこ、漢方の原料、綿花などが栽培され、中でも瓜類の生産が盛んで、古来「瓜の里」と称されています。

【交流実績（昭和57年～平成22年）】

| | | 友好 | 教育・青少年 | 文化 | スポーツ | 技術 | 経済 | 合計 |
|---------|------|-----|--------|-----|------|-----|----|------|
| 蘭州市→秋田市 | 件数 | 20 | 4 | 14 | 3 | 39 | 1 | 81 |
| | 延べ人数 | 113 | 70 | 118 | 40 | 143 | 8 | 492 |
| 秋田市→蘭州市 | 件数 | 25 | 4 | 16 | 11 | 20 | 3 | 79 |
| | 延べ人数 | 700 | 41 | 109 | 98 | 76 | 11 | 1035 |

【主な交流経緯】

| 年 | 月 | 交流内容 |
|-------------|-----|--|
| 昭和55年(1980) | 10月 | 秋田市議会議員訪中団7名が北京の中日友好協会を訪れ、秋田市と中国の都市との交流促進について要請し、中日友好協会から蘭州市との友好関係について勧誘がある。 |
| 昭和56年(1981) | 10月 | 秋田市友好代表团20名が、甘肅省及び蘭州市を訪問したほか、中日友好協会を訪問し、両市の友好締結推進について要請。 |
| 昭和57年(1982) | 8月 | 蘭州市代表团7名が秋田市を訪問し、秋田市－蘭州市、秋田県－甘肅省の合同調印式を挙げる。 |
| 昭和58年(1983) | 8月 | 秋田市友好文化交流使節団44名が蘭州市を訪問し、友好都市締結1周年記念大会に参加。 |
| 昭和60年(1985) | 9月 | 秋田県、秋田市による交流団100名が蘭州市を訪問し、友好都市提携3周年記念行事に参加。 |
| | 10月 | 蘭州市の黄河河畔・濱河路児童公園に秋田市設計による日本式あずま屋「友誼亭」が完成。 |
| 昭和62年(1987) | 4月 | 一つ森公園に蘭州市の設計による中国式あずま屋「友誼亭」が完成。 |
| 昭和63年(1988) | 9月 | 桜小学校と敦煌路小学校が友好姉妹校となる。 |
| 平成元年(1989) | 8月 | 秋田市蘭州市合同登山隊(日本隊23名)が阿爾金山初登頂。 |
| | 10月 | 蘭州市経済文化交流団3名が秋田市を訪問。 |
| 平成2年(1990) | 8月 | 日新小学校と桜小学校の代表团11名が友好校の東郊小学校、敦煌路小学校を訪問。 |
| | 9月 | 秋田水墨画協会17名が蘭州市を訪問し、秋田市・蘭州市合同水墨画展を開催。 |
| 平成3年(1991) | 5月 | 蘭州市医療衛生視察団5名が秋田市を訪問。市立秋田総合病院と蘭州市衛生局、傘下の人民病院との医療技術交流が始まる。 |
| | 6月 | 秋田市水道友好交流団6名が蘭州市を訪問。秋田市水道局(現上下水道局)と蘭州市自來水総公司との技術交流が始まる。 |
| | 10月 | 秋田市日中友好少年少女卓球チーム8名を蘭州市へ派遣。 |
| 平成4年(1992) | 8月 | 蘭州市人民政府友好代表团6名が秋田市を訪問し、友好提携10周年記念式典を開催。 |
| | 9月 | 秋田市友好交流団177名が蘭州市を訪問し、友好提携10周年記念式典に参加。 |
| 平成5年(1993) | 10月 | 秋田市蘭州市スポーツ交流派遣団13名が蘭州市を訪問。 |
| 平成6年(1994) | 4月 | 蘭州市青少年スポーツ交流団15名が秋田市を訪問し、新秋田市立体育館完成記念式典に参加。秋田市体育協会と蘭州市体育総会が友好協会提携盟約を締結。 |
| 平成7年(1995) | 8月 | 秋田市友好代表团3名が蘭州市を訪問。秋田蘭州会主催の中国・蘭州市友好親善訪問団134名もあわせて訪問。 |
| 平成9年(1997) | 9月 | 蘭州市青少年友好交流団13名が秋田市を訪問。 |

| | | |
|-------------|-----|--|
| 平成10年(1998) | 3月 | 秋田市青少年国際理解促進事業により中高生4名が蘭州市を訪問。 |
| 平成11年(1999) | 7月 | 秋田市青少年国際理解促進事業により高校生10名が蘭州市を訪問。 |
| | 9月 | 蘭州市青少年友好交流団8名が秋田市を訪問。 |
| 平成14年(2002) | 8月 | 蘭州市人民政府友好代表団5名が秋田市を訪問し、友好都市提携20周年記念式典を開催。 |
| | 9月 | 蘭州市文化交流事業により蘭州市から水墨画家を招へいし、市民を対象に水墨画講座を開催。 |
| 平成15年(2003) | 10月 | 蘭州市青少年交流団21名が秋田市を訪問。 |
| 平成16年(2004) | 7月 | 蘭州市人民政府代表団4名が秋田市を訪問し、秋田市建都400年記念式典に参加。 |
| | 11月 | 蘭州市文化交流事業により蘭州市から水墨画家を招へいし、市民を対象に水墨画講座を開催。 |
| 平成17年(2005) | 10月 | 秋田市友好代表団4名が蘭州市を訪問。2005～2007年の交流内容について協議し交流合意書を取り交わす。 |
| 平成18年(2006) | 1月 | 蘭州市文化交流事業により蘭州市から太極拳指導者を招へいし、市民を対象に太極拳講座を開催。 |
| | 9月 | 蘭州市文化交流事業により蘭州市から太極拳指導者を招へいし、市民を対象に太極拳講座を開催。 |
| 平成19年(2007) | 8月 | 蘭州市人民政府代表団7名が秋田市を訪問。2008～2010年の交流内容について協議し交流合意書を取り交わす。 |
| | 11月 | 文化交流事業として太極拳講師を招へいし、太極拳講座を開催。 |
| 平成20年(2008) | 10月 | 文化交流事業として太極拳講師を招へいし、太極拳講座を開催。 |
| 平成21年(2009) | 10月 | 蘭州市文化交流事業により蘭州市から牛肉麺講師を招へいし、市民を対象に牛肉麺講習会を開催。 |
| 平成22年(2010) | 5月 | 蘭州市人民政府代表団7名が秋田市を訪問。2011～2013年の交流内容について協議し交流合意書を取り交わす。 |
| | 8月 | 秋田市友好代表団9名が蘭州市を訪問。 |
| | 9月 | 蘭州市文化交流事業により蘭州市から牛肉麺講師を招へいし、市民を対象に牛肉麺講習会を開催。 |
| | 11月 | 蘭州市青少年友好交流団28名が秋田市を訪問。 |

② パッサウ市（ドイツ連邦共和国バイエルン州）

【基礎データ】

●ドイツ連邦共和国（外務省ホームページより）

| | |
|----|-------------------------------------|
| 面積 | 35.7万 km ² （日本の約94%） |
| 人口 | 8,200万人（2008年末） |
| 首都 | ベルリン |
| 人種 | ゲルマン系を主体とするドイツ民族 |
| 宗教 | 旧教約2,518万人、新教約2,452万人（2008年末、連邦統計庁） |
| 政体 | 連邦共和制（16州） |
| 通貨 | ユーロ |

●パッサウ市（パッサウ市ホームページより）

| | |
|------|---|
| 面積 | 68.57km ² （秋田市の約8%） |
| 人口 | 50,672人（秋田市の約16%） |
| 経度 | 北緯48度34分 |
| 緯度 | 東経13度28分 |
| 時差 | －8時間 |
| 主な経路 | 空路で成田からフランクフルトまで約12時間、特急でフランクフルトからパッサウまで約4時間30分 |



【都市の紹介】

パッサウ市は、ドイツ南部、バイエルン州の東部にあるニーダーバイエルン地方に位置し、チェコとオーストリアの国境に接しています。ここでドナウ、イン、イルツの3つの川が合流することから「3河川のまち」と呼ばれ、ドナウ川の下流にあるブタペストやベオグラード、また黒海からも大型の客船が来航する国際的な観光地として知られています。

古くはケルト人の集落があり、紀元前1世紀にローマの砦が建設され、17世紀には2度に渡る大火に見舞われてほぼ全域を焼失しましたが、その後再建されました。世界最大級のパイプオルガンを誇る聖シュテファン大聖堂を核としてまちが形成されましたが、この地域は現在は旧市街と呼ばれ、今日に至るまで市の中心となっています。この地に住んだ5歳のヒトラーが溺れかけたという歴史を秘めた泉も、今も変わらず水をたたえています。近年は、2006年に「新中心街(Neue Mitte Passau)」が建設され、現代的な一面ものぞかせています。

【交流実績（昭和59年～平成22年）】

| | | 友好 | 教育・青少年 | 文化 | スポーツ | 技術 | 経済 | 合計 |
|-----------|------|-----|--------|-----|------|----|----|-----|
| パッサウ市→秋田市 | 件数 | 19 | 11 | 7 | 0 | 2 | 1 | 40 |
| | 延べ人数 | 185 | 126 | 13 | 0 | 4 | 1 | 329 |
| 秋田市→パッサウ市 | 件数 | 23 | 15 | 7 | 2 | 1 | 0 | 48 |
| | 延べ人数 | 381 | 222 | 272 | 43 | 3 | 0 | 921 |

【主な交流経緯】

| 年 | 月 | 交流内容 |
|-------------|-----|---|
| 昭和51年(1976) | 7月 | 秋田市国際親善都市提携懇談会が発足。 西ドイツ大使館側との意見交換により、西ドイツ南部3都市を提携候補地として推薦され、その後、パッサウ市が有力となり、以降、市民交流団の往来が継続的に行われる。 |
| 昭和59年(1984) | 4月 | 秋田市調印代表团及び友好訪問団34名がパッサウ市を訪問し、姉妹都市調印式典を開催。 パッサウ独日協会員8名が姉妹都市調印を記念し、秋田市を訪問。 |
| 昭和60年(1985) | 5月 | パッサウ市友好代表团32名が秋田市を訪問。 |
| | 8月 | 秋田市青少年海外派遣団5名がパッサウ市を訪問。 |
| 昭和62年(1987) | 10月 | 秋田市公式訪問団70名が姉妹都市提携3周年を記念し、パッサウ市を訪問。 |
| 昭和63年(1988) | 5月 | 秋田市民サッカーチーム42名がパッサウ市を訪問。 |
| | 11月 | 旭北小学校児童ら市民32名がパッサウ市を訪問。 |
| 平成元年(1989) | 4月 | 秋田市公式訪問団11名がパッサウ市を訪問。姉妹都市提携5周年を記念し、桜「関山」500本の贈呈植樹祭等を行う。 |
| | 7月 | パッサウ市公式訪問団8名が秋田市を訪問し、秋田市制百周年記念式典に参加。 |
| | 8月 | パッサウ市青少年スポーツ交流団16名が秋田市を訪問。 パッサウ市ノイシュティフト小学校訪問団14名が秋田市を訪問し、旭北小学校と姉妹校調印。 |
| 平成2年(1990) | 6月 | 秋田日独協会が姉妹都市提携5周年を記念し、桜「関山」贈呈記念モニュメントをパッサウ市に贈る。 |
| | 7月 | 秋田市青年スポーツ交流団22名がパッサウ市を訪問。 |
| | 11月 | 高清水小学校児童ら市民25名がパッサウ市を訪問し、インシュタット小学校と姉妹校調印。 |
| 平成3年(1991) | 7月 | パッサウ市青少年スポーツ交流団17名が秋田市を訪問。 |
| | 10月 | 旭北小学校PTAら市民31名がパッサウ市を訪問。 |
| | 11月 | 秋田市公式訪問団26名がパッサウ市を訪問。 |
| 平成4年(1992) | 4月 | パッサウ市公式訪問団39名が秋田市を訪問。姉妹都市提携5周年(1989年)を記念して贈った桜500本の返礼として、「友情の鐘」の贈呈を受ける。 |
| | 7月 | 秋田市青少年スポーツ交流団24名がパッサウ市を訪問し、両市体育協会が姉妹協会を締結。 |
| | 9月 | 秋田市パッサウ訪問団19名がパッサウ市を訪問。 |
| 平成5年(1993) | 8月 | パッサウ市ノイシュティフト小学校訪問団36名が秋田市を訪問。 |
| 平成6年(1994) | 6月 | 秋田市友好交流団36名、小学児童交流団15名、音楽使節団100名、秋田市美術工芸展覧会関係者パッサウ訪問団26名がパッサウ市を訪問し、姉妹都市提携10周年記念式典に参加。記念事業として音楽使節団演奏会、秋田市美術工芸協会パッサウ展を開催。 |
| | 10月 | パッサウ市公式訪問団33名が姉妹都市提携10周年を記念し、秋田市を訪問 |
| 平成9年(1997) | 1月 | 秋田市青少年国際理解促進事業により中高生5名をパッサウ市に派遣。 |
| 平成11年(1999) | 6月 | 姉妹都市提携15周年記念・パッサウ市派遣団14名がパッサウ市を訪問。 |

| | | |
|-------------|-----|---|
| 平成15年(2003) | 10月 | 秋田市公式訪問団29名がパッサウ市を訪問。 |
| 平成16年(2004) | 7月 | パッサウ市公式訪問団44名、スポーツ交流団17名が秋田市を訪問し、姉妹都市提携20周年記念式典、秋田市建都400年記念式典に参加。記念事業としてパッサウ市美術工芸展、写真展等を開催。 |
| 平成18年(2006) | 10月 | 秋田市公式訪問団4名、市民交流団26名がパッサウ市を訪問し、姉妹都市提携20周年記念返礼品の除幕式に参加。 |
| 平成20年(2008) | 7月 | 秋田市事務協議団3名がパッサウ市を訪問。 |
| 平成21年(2009) | 10月 | 秋田市公式訪問団8名、市民交流団87名がパッサウ市を訪問し、姉妹都市提携25周年記念式典に参加。記念事業として「秋田デイ」等を開催。 |
| 平成22年(2010) | 8月 | パッサウ市の音楽家4名が秋田市を訪問し、パイプオルガンとトランペットの演奏会を開催。 |

③ウラジオストク市（ロシア連邦沿海地方）

【基礎データ】

●ロシア連邦（外務省ホームページより）

| | |
|-----|---------------------------------|
| 面積 | 1,707万 km ² （日本の45倍） |
| 人口 | 1億4,180万人（2010年11月） |
| 首都 | モスクワ |
| 公用語 | ロシア語 |
| 宗教 | ロシア正教、イスラム教、仏教、ユダヤ教等 |
| 政体 | 共和制、連邦制（共和国や州等83の構成主体からなる連邦国家） |
| 通貨 | ルーブル |

●ウラジオストク市（日ロ沿岸市長会ホームページより）

| | |
|------|----------------------------------|
| 面積 | 561.54km ² （秋田市の約2/3） |
| 人口 | 578,800人（秋田市の約1.8倍） |
| 経度 | 北緯43度7分 |
| 緯度 | 東経131度53分 |
| 時差 | 1時間 |
| 主な経路 | 空路で新潟または富山から ウラジオストクまで約1時間30分 |



【都市の紹介】

ウラジオストク市は、ロシア太平洋岸最大の都市で、沿海州地方の州都です。1860年、帝政ロシアの極東政策の拠点として建設され、軍港が置かれました。1904年にはロシア国内を東西に横断するシベリア鉄道が開通し、その東の出発点となりました。軍港があったため、旧ソ連時代には、ごく一部を除いた外国人の居住と、旧ソ連国民を含む市外在住者の立ち入りが禁止された閉鎖都市でした。1991年に旧ソ連が崩壊すると開放され、極東ロシアの科学、文化、教育の中心地となりました。貿易や観光、産業の拠点としての役割も高まっています。近年は、2012年に開催される APEC 首脳会議に向けて、インフラ整備が急ピッチで進んでいます。

【交流実績（平成4年～22年）】

| | | 友好 | 教育・青少年 | 文化 | スポーツ | 技術 | 経済 | 合計 |
|------------------|------|-----|--------|----|------|----|----|-----|
| ウラジオストク市 →秋田市 | 件数 | 7 | 2 | 3 | 3 | 0 | 5 | 20 |
| | 延べ人数 | 27 | 26 | 74 | 52 | 0 | 11 | 190 |
| 秋田市 →ウラジオストク市 | 件数 | 17 | 3 | 2 | 3 | 0 | 9 | 34 |
| | 延べ人数 | 117 | 26 | 12 | 55 | 0 | 91 | 301 |

【主な交流経緯】

| 年 | 月 | 交流内容 |
|-------------|----|---|
| 平成元年（1989） | 2月 | 秋田市議会野球クラブおよび市職員有志が野球用具をウラジオストク市に寄贈。 |
| | 5月 | 秋田市訪ソ団3名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成2年（1990） | 9月 | 秋田市スポーツ文化交流団24名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成3年（1991） | 4月 | 秋田市友好交流団13名がウラジオストク市を訪問。 |
| | 9月 | 秋田市野球チーム20名および秋田市議会友好交流団5名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成4年（1992） | 6月 | 秋田市・ウラジオストク市姉妹都市調印代表団17名がウラジオストク市を訪問し、姉妹都市提携を調印。 |
| 平成5年（1993） | 7月 | 秋田市友好交流団12名および秋田市高等学校選抜女子バスケットボールチーム20名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成6年（1994） | 2月 | ウラジオストク市公式代表団3名が秋田市を訪問し、交流協議書に調印。 |
| | 4月 | ウラジオストク市中学生交流団15名が秋田市を訪問。 |
| | 9月 | ウラジオストク市女子バスケットボールチーム17名が秋田市を訪問。 |
| 平成7年（1995） | 6月 | 秋田市友好交流団9名がウラジオストク市を訪問し、ウラジオストク建都135周年記念行事に参加。 |
| | 7月 | 秋田市女子中学生バレーボールチーム15名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成8年（1996） | 6月 | ウラジオストク市女子中学生バレーボールチーム13名が秋田市を訪問。 |
| 平成9年（1997） | 7月 | 秋田市公式代表団3名および秋田市議会公式代表団3名がウラジオストク市を訪問し、姉妹都市提携5周年記念行事に参加。 |
| 平成10年（1998） | 7月 | 秋田市青少年国際理解促進事業により中高生10名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成11年（1999） | 5月 | ウラジオストク市青少年交流団11名が秋田市を訪問。 |
| 平成12年（2000） | 6月 | 秋田市公式訪問団2名および秋田市議会公式訪問団2名がウラジオストク市を訪問し、ウラジオストク建都140周年記念行事に参加。 |
| 平成13年（2001） | 8月 | 秋田市国際理解促進事業により中高生12名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成14年（2002） | 8月 | ウラジオストク市代表団3名が秋田市を訪問し、姉妹都市提携10周年記念式典を開催。 |
| 平成17年（2005） | 6月 | 秋田市公式訪問団2名がウラジオストク市を訪問し、ウラジオストク建都145周年記念行事に参加。 |
| 平成20年（2008） | 8月 | 秋田市公式訪問団6名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成21年（2009） | 7月 | 日露青年交流事業により高校生4名がウラジオストク市を訪問。 |
| 平成22年（2010） | 7月 | 秋田市代表団7名がウラジオストク市を訪問し、ウラジオストク建都150周年記念行事に参加。 |

④ セントクラウド市（アメリカ合衆国ミネソタ州）

【基礎データ】

●アメリカ合衆国（外務省ホームページより）

面積 962.8万 km²（日本の約25倍）
 人口 3億914万人（2010年4月）
 首都 ワシントン D. C.
 言語 主に英語
 宗教 信教の自由を憲法で保障、主にキリスト教
 政体 大統領制、連邦制（50州他）
 通貨 米ドル



●セントクラウド市（セントクラウド市ホームページより）

面積 80.1km²（秋田市の約9%）
 人口 67,145人（秋田市の約21%）
 経度 北緯45度33分
 緯度 西経95度50分
 時差 -15時間
 経路 空路で成田からミネアポリスまで約11時間、車でミネアポリスからセントクラウドまで約1時間

【都市の紹介】

セントクラウド市は、5大湖の西にあり、北はカナダに国境を接するミネソタ州の中央部に位置します。古くはアメリカ先住民の土地でしたが、移民が入植し、1856年に市ができました。現在、セントクラウド市を中心とした周辺地域では、全米で最も急速に都市化が進んでおり、人口は合わせて約19万人にのぼります。市内を流れ、メキシコ湾へと下るミシシッピ川の一部は、州の自然景観プログラムにより管理され、ビーバーの生息地があり、カヌーの名所としても親しまれています。同市は、1880年代に始まった花崗岩の採石業にちなんで「花崗石のまち」と呼ばれ、様々な種類の岩石に恵まれることから、多くの研究者が訪れています。

市内には、ミネソタ州で2番目に大きいセントクラウド州立大学のほか、大学・短大が4校あり、合わせて2万人以上の学生が学んでいます。秋田大学や国際教養大学は、セントクラウド州立大学と大学間協定を結んでおり、秋田からも多くの学生が留学しています。

【交流実績（平成5年～22年）】

| | | 友好 | 教育・青少年 | 文化 | スポーツ | 技術 | 経済 | 合計 |
|------------------|------|----|--------|-----|------|----|----|-----|
| セントクラウド市 →秋田市 | 件数 | 2 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 | 16 |
| | 延べ人数 | 12 | 585 | 42 | 0 | 0 | 0 | 639 |
| 秋田市 →セントクラウド市 | 件数 | 4 | 11 | 1 | 0 | 0 | 0 | 16 |
| | 延べ人数 | 40 | 175 | 117 | 0 | 0 | 0 | 332 |

※平成16年度までの旧雄和町での交流実績およびミネソタ州立大学機構秋田校留学生数を含む

【主な交流経緯】

| 年 | 月 | 交流内容 |
|-------------|----|---|
| 平成元年（1989） | 5月 | 旧雄和町とセントクラウド市が姉妹都市関係宣言書を調印。 |
| 平成5年（1993） | 6月 | 旧雄和町とセントクラウド市が姉妹都市提携を調印。 |
| 平成16年（2004） | 7月 | 秋田市および河辺郡河辺町および同郡雄和町の配置分合に関する件ほか関連議案の議決により、旧雄和町とセントクラウド市との姉妹都市関係を市町合併後の秋田市が引き継ぐこととなる。 |
| 平成17年（2006） | 1月 | 市町合併により新秋田市誕生。 |
| 平成18年（2006） | 6月 | 秋田市公式訪問団6名がセントクラウド市を訪問し、姉妹都市提携を調印。 |
| 平成19年（2007） | 8月 | セントクラウド地域国際姉妹都市協会秋田委員会委員長ほか8名が秋田市を訪問。 |

⑤ キナイ半島郡（アメリカ合衆国アラスカ州）

【基礎データ】

●キナイ半島郡（キナイ半島郡ホームページより）

| | |
|----|---|
| 面積 | 約65万 km ² （秋田市の約720倍） |
| 人口 | 54,665人（郡内5市、秋田市の約17%） |
| 経度 | 北緯 60度29分（ソルドトナ市） |
| 緯度 | 西経151度4分（ソルドトナ市） |
| 時差 | -18時間 |
| 経路 | 空路で、成田からシアトルまで約8時間30分、シアトルからアンカレッジまで約3時間、アンカレッジからキナイまで約30分、計12時間。 |

【都市の紹介】

キナイ半島郡は、アラスカ州の中南部、州都アンカレッジの南に位置するキナイ半島と、その北西に入り込んだクック湾の対岸からなる地域です。キナイ、ソルドトナ、ホーマー、セルドヴィア、スワードの主要5市のほか、カチェマック市や、ティオネック、ポートグラハム、ナンワレクといったアメリカ先住民の村から構成され、郡役所はソルドトナ市にあります。

古くはアメリカ先住民の住む土地でしたが、18世紀末にロシア人が入植しました。彼らが先住民を「Kenaize」と呼んだのが地名の由来です。1867年にアメリカに買収されてアメリカ領になったのち、1959年にはアラスカが州となり、1964年にキナイ半島郡が置かれました。

郡の面積の35%を水面が占め、雄大な自然と水産資源に恵まれています。サケの缶詰を作る水産加工業は、19世紀の終わり頃に始まり、今日でも盛んです。夏の間、川や湖沼は、釣りやアウトドアスポーツを楽しむ観光客で賑わいます。特にキナイ川は、世界最大のキングサーモンが釣れることで有名です。

また、クック湾のキナイ市沖には、1957年に発見されたアラスカ初の大規模油田があり、世界的に知られた原油と天然ガスの産地となっています。

【交流実績（平成4年～22年）】

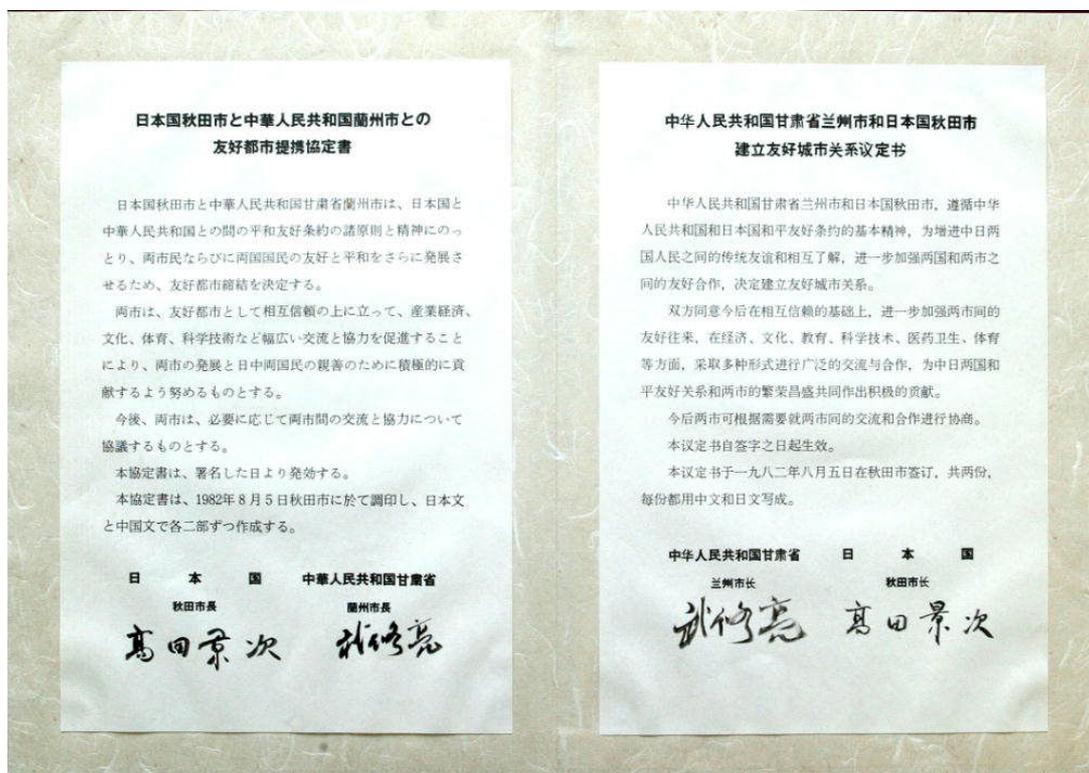
| | | 友好 | 教育・青少年 | 文化 | スポーツ | 技術 | 経済 | 合計 |
|----------------|------|----|--------|----|------|----|----|----|
| キナイ半島郡 →秋田市 | 件数 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 11 |
| | 延べ人数 | 55 | 25 | 0 | 0 | 0 | 2 | 82 |
| 秋田市 →キナイ半島郡 | 件数 | 10 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| | 延べ人数 | 50 | 46 | 0 | 0 | 0 | 0 | 96 |

【主な交流経緯】

| 年 | 月 | 交流内容 |
|-------------|-----|---|
| 平成3年（1991） | 7月 | 秋田市の国際化推進調査の一環として、アメリカ合衆国の都市と交流可能性を探るため、在日のすべての州政府事務所に交流候補都市の推薦を依頼。アラスカ州政府在日事務所から秋田市との交流を積極的に進めたいとの意向が示される。 |
| 平成4年（1992） | 1月 | キナイ半島郡調査団5名が秋田市を訪問し、交流合意を取り交わす。 |
| | 7月 | 秋田市調査団6名がキナイ半島郡を訪問し、交流分野を協議。 |
| 平成5年（1993） | 8月 | キナイ半島郡公式訪問団5名が秋田市を訪問し、交流分野に関する調査を行うとともに、水産資源共同調査の契約を締結。 |
| 平成6年（1994） | 9月 | 秋田市青少年交流団6名がキナイ半島郡を訪問。 |
| 平成7年（1995） | 2月 | 水産資源共同調査事業の結果、ハタハタの商業利用は困難と結論。 |
| 平成8年（1996） | 7月 | 秋田市公式訪問調査団8名がキナイ半島郡を訪問し、将来的な交流の可能性について協議。 |
| 平成9年（1997） | 9月 | ゆめ秋田21教育推進事業により中学生24名がキナイ半島郡を訪問。 |
| 平成11年（1999） | 1月 | 秋田市青少年国際理解促進事業により中高生10名がキナイ半島郡を訪問。 |
| 平成12年（2000） | 6月 | キナイ半島郡青少年交流団17名が秋田市を訪問。 |
| 平成15年（2003） | 11月 | キナイ半島郡公式訪問団7名が秋田市を訪問。 |
| 平成16年（2004） | 7月 | キナイ半島郡公式訪問団3名が秋田市を訪問し、秋田市建都400年記念式典に参加。 |
| 平成17年（2005） | 6月 | キナイ半島郡交流訪問団9名が秋田市を訪問。 |
| 平成19年（2007） | 7月 | 秋田市代表団5名がキナイ半島郡を訪問。 |
| 平成20年（2008） | 5月 | キナイ半島郡交流訪問団11名が秋田市を訪問。 |
| 平成22年（2010） | 8月 | キナイ半島郡交流訪問団12名が秋田市を訪問。 |

(2) 友好姉妹都市等との提携書

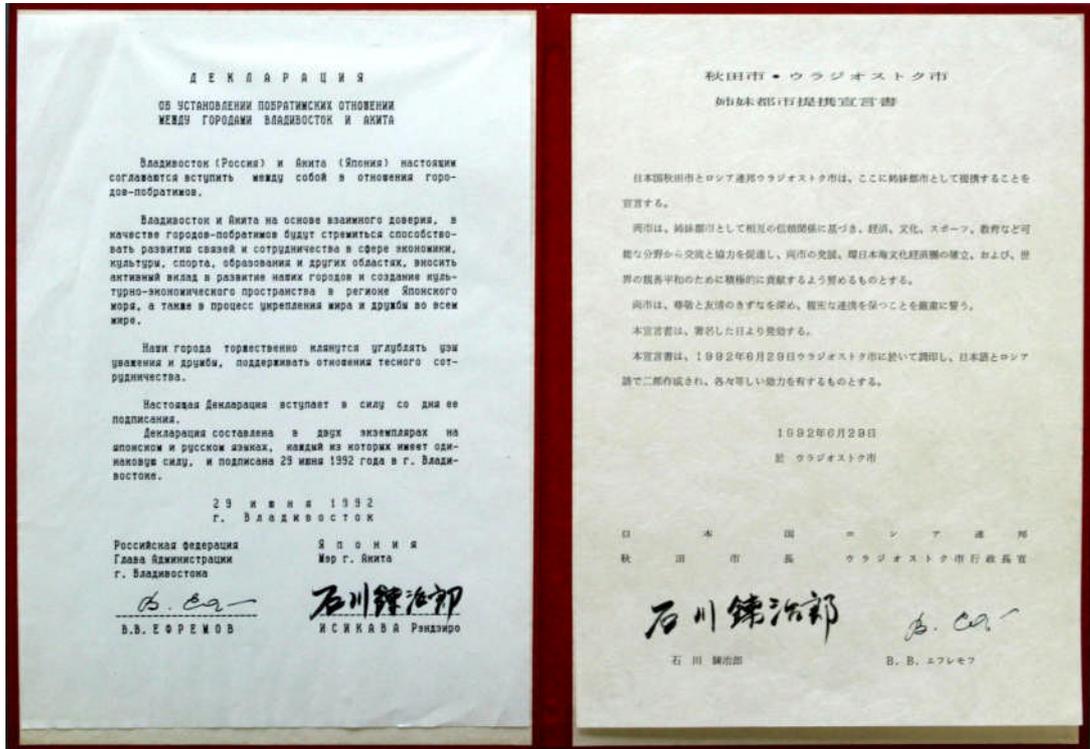
①蘭州市【友好都市提携 昭和57年（1982年）8月5日】



②パッサウ市【姉妹都市提携 昭和59年（1984年）4月8日】



③ウラジオストク市【姉妹都市提携 平成4年（1992年）6月29日】



④セントクラウド市【姉妹都市提携 平成18年（2006年）6月28日】



(3) 市内学校の海外校との提携状況

①各校の提携状況

小学校

| 学校名 | 相手校 | 提携年月 |
|--------|------------------------|---------|
| 旭北小学校 | ノイシュティフト小学校(ドイツ・パッサウ市) | 平成元年8月 |
| 高清水小学校 | インシュタット小学校(ドイツ・パッサウ市) | 平成2年11月 |
| 桜小学校 | 敦煌路小学校(中国・蘭州市) | 昭和63年9月 |

※当課調べ(平成22年12月31日現在)

高等学校

| 学校名 | 相手校 | 提携年月 |
|-----------------|------------------------------|----------|
| 秋田南高等学校 | 群山女子高校(韓国) | 平成16年7月 |
| 秋田北高等学校 | 花水高等学校(韓国) | 平成19年8月 |
| 秋田和洋女子高等学校 | 坪村情報産業学校(韓国) | 平成16年1月 |
| 聖霊女子短期大学付属高等学校校 | セイクリッド・ハート・カレッジ(オーストラリア) | 平成4年10月 |
| | アワ・レディ・オブ・マーシー・カレッジ(オーストラリア) | 平成18年12月 |

※秋田県学術国際局国際課「秋田県の国際化の現状」より(平成22年12月31日現在)

大学

| 学校名 | 提携の形態 | 相手校 | 提携年月 |
|------------------|----------|----------------------|----------|
| 秋田大学 | 大学間協定 | 黒龍江大学(中国) | 昭和63年10月 |
| | | 中国医科大学(中国) | 平成元年10月 |
| | | 中南大学(中国) | 平成16年8月 |
| | | 遼寧工程技術大学(中国) | 平成17年4月 |
| | | 大連民族学院(中国) | 平成17年6月 |
| | | 蘭州大学(中国) | 平成17年8月 |
| | | 新疆医科大学(中国) | 平成18年2月 |
| | | 吉林大学(中国) | 平成19年2月 |
| | | 東北大学(中国) | 平成19年8月 |
| | | 東華大学(中国) | 平成21年12月 |
| | | 華中科技大学同済医学院(中国) | 平成22年3月 |
| | | 長安大学(中国) | 平成22年11月 |
| | | グリフィス大学(オーストラリア) | 平成6年6月 |
| | | ベラルーシ医科大学(ベラルーシ) | 平成8年1月 |
| | | セント・クラウド州立大学(米国) | 平成8年7月 |
| | | ハンバット大学校(韓国) | 平成13年6月 |
| | | 圓光大学校(韓国) | 平成19年10月 |
| | | 江源大学校(韓国) | 平成20年3月 |
| | | ポハン工科大学校(韓国) | 平成21年10月 |
| | | オークランド工科大学(ニュージーランド) | 平成16年3月 |
| | | 龍華科技大学(台湾) | 平成17年7月 |
| | | 国立台北科技大学(台湾) | 平成17年7月 |
| | | トエンテ大学(オランダ) | 平成19年10月 |
| | | ハノイ工科大学(ベトナム) | 平成20年12月 |
| ハノイ交通・通信大学(ベトナム) | 平成20年12月 | | |
| モンゴル科学技術大学(モンゴル) | 平成21年10月 | | |
| イフザサグ大学(モンゴル) | 平成22年7月 | | |
| モンゴル国立教育大学(モンゴル) | 平成22年7月 | | |

| 学校名 | 提携の形態 | 相手校 | 提携年月 |
|--------------------------|---------------------------|----------------------------|----------|
| 秋田大学 | 大学間協定 | ケミ・トルニオ応用科学大学(フィンランド) | 平成21年10月 |
| | | ボツワナ国際科学技術大学(ボツワナ) | 平成21年10月 |
| | | キャリア大学(イタリア) | 平成21年12月 |
| | | ケニヤッタ大学(ケニア) | 平成22年3月 |
| | | ハイファ大学(イスラエル) | 平成22年9月 |
| | | ブカレスト大学(ルーマニア) | 平成22年9月 |
| | 学部間協定(医学部) | 中国衛生部北京医院(中国) | 平成7年11月 |
| | 学部間協定 (工学資源学部) | モンタナ鉱物理工科大学(米国) | 昭和57年6月 |
| | | ミズーリ科学技術大学(米国) | 平成12年12月 |
| | | 清華大学精密儀器与機械学系(中国) | 平成19年3月 |
| | | 清華大学化学系(中国) | 平成20年1月 |
| | | 同濟大学材料科学与行程学院(中国) | 平成22年5月 |
| | | 同濟大学上海市金属効能材料開發応用重点実験室(中国) | 平成22年5月 |
| | | チェンマイ大学工学部(タイ) | 平成11年7月 |
| | | チェンマイ大学理学部(タイ) | 平成11年7月 |
| | | チュラロンコン大学理学部(タイ) | 平成21年5月 |
| | | ザンビア大学鉱山学部(ザンビア) | 平成15年1月 |
| | | ザンビア大学工学部(ザンビア) | 平成15年3月 |
| | | スファクス大学工学部(チュニジア) | 平成15年12月 |
| | | フライベルク大学(ドイツ) | 平成18年2月 |
| バンドン工科大学地球科学技術学部(インドネシア) | | 平成22年3月 | |
| 明新科技大学工学院(台湾) | 平成22年4月 | | |
| VBL(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー) | 国立忠南大学先端磁性材料研究所(韓国) | 平成17年11月 | |
| ノースアジア大学 | 大学間協定 | 慶熙大学校(韓国) | 平成2年12月 |
| | | 東亜大学校(韓国) | 平成19年10月 |
| | | 培材大学校(韓国) | 平成22年7月 |
| | | 北京外国語大学(中国) | 平成18年10月 |
| | | 南開大学漢語言文化学院(中国) | 平成19年7月 |
| | | 真理大学(台湾) | 平成17年4月 |
| | | メトロポリタン州立大学(米国) | 平成19年4月 |
| | | 秋田県立大学 | 大学間協定 |
| 東華大学(台湾) | 平成20年2月 | | |
| 学部間協定 (生物資源科学部) | 東北農業大学生命科学学院(中国) | | 平成13年6月 |
| | 東北農業大学資源環境学院(中国) | | 平成14年7月 |
| | 東北農業大学食品学院(中国) | | 平成14年7月 |
| | 高麗大学バイオテクノロジー研究科(韓国) | | 平成16年3月 |
| | 西北師範大学生命科学院(中国) | | 平成19年9月 |
| | 山西大学環境与資源学院(中国) | | 平成20年11月 |
| | 順天大学校生命産業化学大学(韓国) | | 平成21年9月 |
| 学部間協定 (システム科学技術学部) | 東西大学校情報システム工学部(韓国) | | 平成15年3月 |
| | クスコ国立大学サン・アントニオ・アバット(ペルー) | | 平成16年8月 |
| | トリブワン大学工学研究科(ネパール) | | 平成16年9月 |
| | 蘭州大学情報科学工学院(中国) | | 平成17年12月 |
| 木材高度加工研究所 | グアダハラハラ大学理工学部(メキシコ) | | 平成20年7月 |
| | 西ハンガリー大学木材科学部(ハンガリー) | 平成14年12月 | |
| 国際教養大学 | 大学間協定 | ミネソタ州立ウィノナ大学(米国) | 平成16年4月 |
| | | ミネソタ州立セントクラウド大学(米国) | 平成16年11月 |

| 学校名 | 提携の形態 | 相手校 | 提携年月 |
|----------------|----------|--------------------------|----------|
| 国際教養大学 | 大学間協定 | ライオンカレッジ(米国) | 平成17年10月 |
| | | メリーランド州立セントメアリーズカレッジ(米国) | 平成17年12月 |
| | | ニューヨーク州立大学オスウェゴ校(米国) | 平成18年3月 |
| | | ワシントン大学(米国) | 平成18年3月 |
| | | カリフォルニア大学デイビス校(米国) | 平成18年5月 |
| | | カリフォルニア大学サンタクルーズ校(米国) | 平成18年6月 |
| | | イサカ大学(米国) | 平成18年6月 |
| | | カリフォルニア大学バークレー校(米国) | 平成18年9月 |
| | | オレゴン州立大学(米国) | 平成18年10月 |
| | | ウェスタンオレゴン大学(米国) | 平成18年10月 |
| | | オレゴン大学(米国) | 平成18年10月 |
| | | ポートランド大学(米国) | 平成18年10月 |
| | | イースタンオレゴン大学(米国) | 平成18年10月 |
| | | サザンオレゴン大学(米国) | 平成18年10月 |
| | | オレゴン工科大学(米国) | 平成18年10月 |
| | | ニューメキシコ大学(米国) | 平成19年1月 |
| | | ユタ大学(米国) | 平成19年1月 |
| | | ハムリン大学(米国) | 平成19年3月 |
| | | ワシントン・ジェファーソンカレッジ(米国) | 平成19年5月 |
| | | コロラド大学ボルダー校(米国) | 平成19年5月 |
| | | ジョージメイソン大学(米国) | 平成19年10月 |
| | | ゴンザガ大学(米国) | 平成19年10月 |
| | | ケンタッキー大学(米国) | 平成20年5月 |
| | | ジョージワシントン大学(米国) | 平成20年7月 |
| | | アーサイナス大学(米国) | 平成20年11月 |
| | | ミルサップス大学(米国) | 平成20年12月 |
| | | ハワイ大学マノア校(米国) | 平成21年3月 |
| | | アルバーノカレッジ(米国) | 平成21年4月 |
| | | ウェスタンワシントン大学(米国) | 平成21年7月 |
| | | モンマスカレッジ(米国) | 平成21年11月 |
| | | ノックスカレッジ(米国) | 平成21年12月 |
| | | ベロイトカレッジ(米国) | 平成22年2月 |
| | | プレスビテリアン・カレッジ(米国) | 平成22年2月 |
| | | ノーザンアイオワ大学(米国) | 平成22年3月 |
| | | ウィリアム・アンド・メアリー大学(米国) | 平成22年3月 |
| | | ディキンソン・カレッジ(米国) | 平成22年6月 |
| | | ウィルフリッドロリエ大学(カナダ) | 平成17年5月 |
| | | ラヴァール大学(カナダ) | 平成18年5月 |
| | | マニトバ大学(カナダ) | 平成18年7月 |
| | | ビクトリア大学(カナダ) | 平成19年8月 |
| | | トロント大学(カナダ) | 平成20年1月 |
| ウインザー大学(カナダ) | 平成20年5月 | | |
| ウォータールー大学(カナダ) | 平成22年11月 | | |
| エセックス大学(英国) | 平成17年10月 | | |
| リーズ大学(英国) | 平成17年10月 | | |
| シェフィールド大学(英国) | 平成17年12月 | | |
| アバディーン大学(英国) | 平成18年8月 | | |
| グラスゴー大学(英国) | 平成19年12月 | | |

| 学校名 | 提携の形態 | 相手校 | 提携年月 |
|-------------------|----------|--------------------------|----------|
| 国際教養大学 | 大学間協定 | スターリング大学(英国) | 平成19年12月 |
| | | エクセター大学(英国) | 平成19年12月 |
| | | ニューカッスル大学(英国) | 平成20年3月 |
| | | アムステルダム応用工科大学(オランダ) | 平成22年2月 |
| | | オーフス大学(デンマーク) | 平成20年5月 |
| | | インターカレッジ(キプロス) | 平成17年7月 |
| | | ニコシア大学(キプロス) | 平成21年11月 |
| | | ヨアネウム大学(オーストリア) | 平成17年5月 |
| | | ルードヴィヒスハーフェン大学(ドイツ) | 平成17年5月 |
| | | マンハイム大学経営学部(ドイツ) | 平成20年12月 |
| | | マルタ大学(マルタ) | 平成18年3月 |
| | | マサリック大学(チェコ) | 平成20年5月 |
| | | モスクワ国際大学(ロシア) | 平成18年9月 |
| | | 極東国立総合大学(ロシア) | 平成22年2月 |
| | | モスクワ大学(ロシア) | 平成22年4月 |
| | | ペーチ大学(ハンガリー) | 平成18年5月 |
| | | カトリック大学(ポルトガル) | 平成20年3月 |
| | | ルーアン大学(フランス) | 平成18年3月 |
| | | EGS・パリ大学(フランス) | 平成21年4月 |
| | | トゥールーズビジネススクール(フランス) | 平成22年3月 |
| | | トゥールーズ・ル・ミライユ大学(フランス) | 平成22年3月 |
| | | ベルゲン大学(ノルウェー) | 平成17年6月 |
| | | オスロ大学(ノルウェー) | 平成17年12月 |
| | | NHH ノルウェー経済経営大学(ノルウェー) | 平成20年12月 |
| | | ストックホルム大学(スウェーデン) | 平成17年8月 |
| | | リンネ大学(スウェーデン) | 平成22年1月 |
| | | サンガレン応用科学大学(スイス) | 平成19年11月 |
| | | チューリッヒ応用科学大学(スイス) | 平成19年11月 |
| | | ブカレスト大学(ルーマニア) | 平成22年3月 |
| | | グリフィス大学(オーストラリア) | 平成18年4月 |
| | | ラトロープ大学(オーストラリア) | 平成19年2月 |
| | | オーストラリア国立大学(オーストラリア) | 平成19年11月 |
| | | シドニー大学(オーストラリア) | 平成22年3月 |
| | | カンタベリー大学(ニュージーランド) | 平成19年7月 |
| | | ウエリントン・ビクトリア大学(ニュージーランド) | 平成19年12月 |
| | | 高麗大学(韓国) | 平成16年11月 |
| | | 延世大学(韓国) | 平成18年9月 |
| | | 西江大学(韓国) | 平成19年10月 |
| | | ソウル国立大学(韓国) | 平成19年12月 |
| | | 梨花女子大学(韓国) | 平成20年1月 |
| | | 南開大学(中国) | 平成16年4月 |
| | | 南京大学(中国) | 平成18年1月 |
| | | 武漢大学(中国) | 平成21年4月 |
| | | 吉林大学(中国) | 平成22年5月 |
| マカオ大学(中国・マカオ) | 平成17年4月 | | |
| 香港大学(中国・香港) | 平成17年10月 | | |
| 香港バプティスト大学(中国・香港) | 平成22年7月 | | |
| 国立台湾大学(台湾) | 平成17年3月 | | |

| 学校名 | 提携の形態 | 相手校 | 提携年月 |
|-----------------|---------|-------------------------|----------|
| 国際教養大学 | 大学間協定 | 淡江大学(台湾) | 平成17年3月 |
| | | 元智大学(台湾) | 平成17年11月 |
| | | 国立政治大学(台湾) | 平成18年5月 |
| | | 開南大学(台湾) | 平成21年3月 |
| | | 国立暨南国際大学(台湾) | 平成21年5月 |
| | | シンガポール国立大学(シンガポール) | 平成17年12月 |
| | | ナンヤン工科大学(シンガポール) | 平成18年11月 |
| | | マラヤ大学(マレーシア) | 平成18年9月 |
| | | チュラロンコン大学(タイ) | 平成18年9月 |
| | | モンゴル人文大学(モンゴル) | 平成16年6月 |
| | | モンゴル国立大学(モンゴル) | 平成18年7月 |
| | | アテネオ大学(フィリピン) | 平成20年1月 |
| | | カイロ・アメリカン大学(エジプト) | 平成21年5月 |
| | | カイロ大学(エジプト) | 平成21年5月 |
| | | アル・アハワイン大学(モロッコ) | 平成22年11月 |
| | | ワシントン大学(アメリカ) | 平成18年3月 |
| | | マルタ大学(マルタ) | 平成18年3月 |
| | | ルーアン大学(フランス) | 平成18年3月 |
| | | グリフィス大学(オーストラリア) | 平成18年4月 |
| | | カリフォルニア州立大学デイビス校(アメリカ) | 平成18年5月 |
| | | 国立政治大学(台湾) | 平成18年5月 |
| | | ラヴァール大学(カナダ) | 平成18年5月 |
| | | ペーチ大学(ハンガリー) | 平成18年5月 |
| | | イサカ大学(アメリカ) | 平成18年6月 |
| | | カリフォルニア大学サンタクルーズ校(アメリカ) | 平成18年6月 |
| | | モンゴル国立大学(モンゴル) | 平成18年7月 |
| | | マニトバ大学(カナダ) | 平成18年7月 |
| | | アバディーン大学(イギリス) | 平成18年8月 |
| | | モスクワ国際大学(ロシア) | 平成18年9月 |
| | | チュラロンコン大学(タイ) | 平成18年9月 |
| マラヤ大学(マレーシア) | 平成18年9月 | | |
| 延世大学(韓国) | 平成18年9月 | | |
| 聖霊短期大学 | | ノートルダム大学(アメリカ) | 平成6年 9月 |
| 日本赤十字 秋田短期大学 | 大学間協定 | モナッシュ大学(オーストラリア) | 平成12年11月 |
| | | 台北医科大学(台湾) | 平成20年7月 |

※秋田県学術国際局国際課「秋田県の国際化の現状」より(平成22年12月31日現在)

②秋田県内の留学生数

(単位:人)

| | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 留学生数 | 156 | 206 | 226 | 278 | 324 | 415 |

※秋田県学術国際局国際課「秋田県の国際化の現状」より(毎年10月1日時点)

(4) 国際平和の取り組み

①秋田市議会の非核平和都市宣言に関する決議

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。

しかるに、米、ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。

わが国は、世界唯一の核被爆国として広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならない。

そのためには平和憲法の本質にのっとり、国是である「非核三原則」を将来ともに厳格に遵守すべきである。

さらに、土崎空襲の悲劇を体験した秋田市は、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶、核兵器全面禁止を全世界に強く訴え、同時に秋田市を核戦争の惨禍にまきこむような動きを未然に防ぐため全力をあげるものである。

ここに秋田市は市民の総意を結集して「非核平和都市」の宣言を行うものである。

右決議する。

昭和59年12月24日

秋田市議会

②国際親善・核なき平和祈念碑「祈り」

秋田市制百周年を記念し、平成元年8月15日、秋田市泉の平和公園に、世界の恒久平和のために国際親善を通じた相互理解を祈念するとともに、秋田市議会の非核平和都市宣言に関する決議を尊重して、国際親善・核なき平和祈念碑を設置しました。

祈念碑「祈り」は、国と国、心かよいあう市民の交流を表し、また、核のない平和を求める合掌をイメージしています。



③原爆展

核兵器や戦争の恐ろしさを後世に伝え、平和に対する意識を永続的に持ち続けるため、写真パネル展示や被爆資料展示、被爆体験者講話会等を平成20年度から毎年実施しています。

| 年度 | 期間 | 会場 | 参加数(人) |
|------|------------|---------------------|--------|
| 平成20 | 7月26日～8月1日 | 秋田拠点センター「アルヴェ」 | 5,804 |
| 21 | 8月6日～12日 | 秋田市立中央図書館明德館 | 2,769 |
| 22 | 7月23日～8月1日 | 西部市民サービスセンター「ウェスター」 | 1,345 |



写真パネル展示



被爆体験者講話会

④平和の朗読会

平和への願いを次の世代へ確実に残していくため、小学校の総合学習等を活用し、平和をテーマにした朗読会を平成22年度から開催しています。



朗読会の様子

2 市民交流関係

(1) 秋田市の国際交流関係団体

秋田県国際交流協会では、地域国際化推進のため、国際交流や国際協力、多文化共生などの活動を行う団体の相互連携や情報交換を進める、「あきた国際活動民間団体ネットワーク」（あきたエアネット）を組織しています。

あきた国際活動民間団体（あきたエアネット）ネットワークに加入している秋田市内の国際交流関係団体一覧

(平成23年3月現在・団体名は五十音順)

| No | 団体名 | No | 団体名 | No | 団体名 |
|----|--------------------|----|-----------------------------|----|---------------------|
| 1 | アイ・シー・エス | 33 | あきた地球村 | 65 | GINGA |
| 2 | 秋田ウラジオ会 | 34 | 秋田地区日本中国友好協会 | 66 | クロワッサン |
| 3 | 秋田A会話 | 35 | 秋田とイタリアの友好をすすめる会(フォンジョルノ秋田) | 67 | 言語交流研究所 ヒップファミリークラブ |
| 4 | あきたNPOネットワーク | 36 | 秋田とハンガリーの音楽交流をすすめる会 | 68 | 国際交流オープンクラス |
| 5 | 秋田海外浪漫倶楽部 | 37 | 秋田日独協会 | 69 | 国際ソロプチミスト秋田 |
| 6 | 秋田外国人留学生英会話クラブ | 38 | 秋田日仏協会 | 70 | コスモス英会話 |
| 7 | 財団法人秋田観光コンベンション協会 | 39 | 秋田日米協会 | 71 | コリアサークル |
| 8 | 秋田韓国商工会議所 | 40 | 秋田にほんごの会 | 72 | JCECO |
| 9 | 秋田キャンパスネット | 41 | 秋田パイロットクラブ | 73 | JCFサークル同路人 |
| 10 | 秋田県海外技術協力会 | 42 | 秋田バハイ共同体 | 74 | JICA帰国専門家秋田県連絡会 |
| 11 | 社団法人秋田県芸術文化協会 | 43 | 「秋田美術作家デジタルアーカイブ」プロジェクト | 75 | ジャナグル公演実行委員会 |
| 12 | 秋田県語学ボランティア協会 | 44 | 秋田ペルー協会 | 76 | シャブラニール=市民による海外協力の会 |
| 13 | 秋田県国際交流研究会 | 45 | 秋田ベンチャークラブ | 77 | 青少年音楽の家運営委員会 |
| 14 | 秋田県国際交流をすすめる女性の会 | 46 | 秋田モンゴル友好協会 | 78 | 青年海外協力隊 秋田県OB会 |
| 15 | 秋田県こどもの日本語ネットワーク | 47 | 秋田ユネスコ協会 | 79 | LET'S GO ENGLISH |
| 16 | 秋田県青年海外協力隊を支援する会 | 48 | 秋田ルーム・トゥ・リード | 80 | 中国留学人員秋田地区学友会 |
| 17 | 秋田県青友会 | 49 | あきたロシア音楽祭組織委員会 | 81 | 東北アジア学生ラウンドテーブル |
| 18 | 財団法人秋田県体育協会 | 50 | 秋田ロシア語友の会(ハラショー会) | 82 | NPO日中韓 虹のかけはしAKITA |
| 19 | 秋田県日中友好協会 女性委員会 | 51 | 社団法人あすの秋田を創る協会 | 83 | 日本基層文化研究会 |
| 20 | 秋田県日本中国友好協会 | 52 | アムネスティ・インターナショナル秋田 | 84 | にほんご教室ジャルサ |
| 21 | 社団法人秋田県貿易促進協会 | 53 | 特定非営利活動法人アルカリ土壌改良推進ネットワーク | 85 | 日本語教室ニジマス |
| 22 | 秋田県連合青年会 | 54 | いろは倶楽部 | 86 | 日本国際連合協会 秋田県本部 |
| 23 | 秋田国際交流団体連絡会 | 55 | 財団法人AFS日本協会秋田支部 | 87 | 日本ベラルーシ友好協会 |
| 24 | 秋田国際交流友の会 | 56 | NPO桜樞花 | 88 | 野口裕子箏曲教室 |
| 25 | 秋田国際俳句・川柳・短歌ネットワーク | 57 | ガールスカウト日本連盟秋田県支部 | 89 | 特定非営利活動法人パニヤンツリー |
| 26 | 秋田市姉妹都市フォーラム | 58 | Castilla研究会 | 90 | ハングっこ |
| 27 | 秋田市体育協会 | 59 | 金森 韓国語・中国語教室 | 91 | バル・ヴィエントス |
| 28 | 秋田市日本語教室 | 60 | 韓国語教室 | 92 | ボーイスカウト秋田連盟 |
| 29 | 秋田商工会議所 | 61 | 韓国語交流会 | 93 | マーガレット |
| 30 | 秋田水墨画協会 | 62 | 韓・旅人 | 94 | マンガリッシュ |
| 31 | 社団法人秋田青年会議所 | 63 | 合同会社北川科学総合研究所 | 95 | 雄和国際交流協会 |
| 32 | 秋田ボンタクラブ | 64 | NPO法人 KIDS | 96 | NGO RASICA |

(秋田県国際交流協会ホームページより)

(2) 秋田市姉妹都市フォーラムの活動イメージ

秋田市姉妹都市フォーラムは、市民主体による国際交流の推進と市民の異文化理解を目指し、友好姉妹都市等とゆかりのある市民が中心となって、平成18年4月に設立されました。

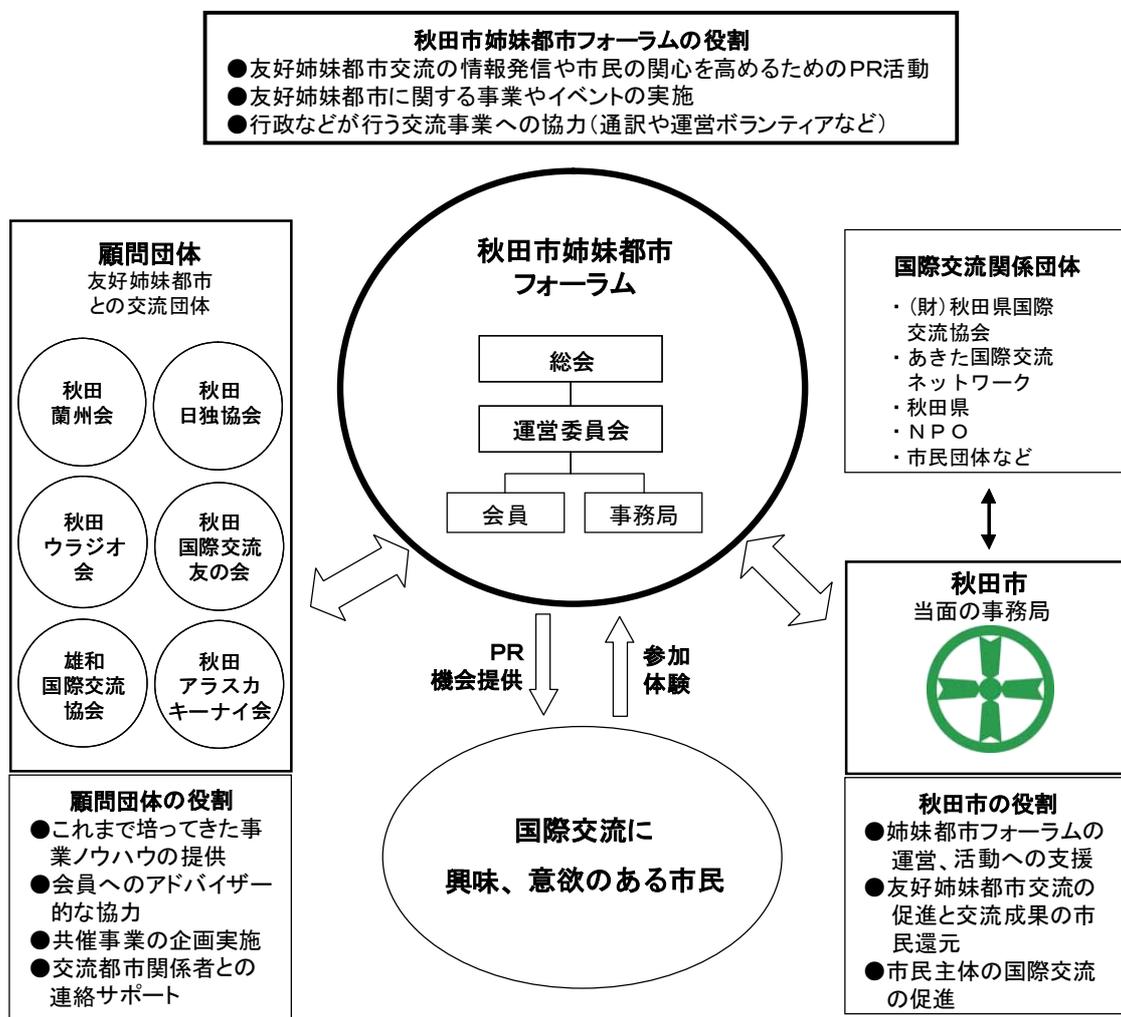
①秋田市姉妹都市フォーラムのめざすところ

会員による自主的な運営を進めることにより、行政と市民、市民団体などを結びつける役割を担い、行政と市民との連携による友好姉妹都市交流を実践しながら、市民を主体とした国際交流の実現をめざす。

②当面の活動内容

- 会員による多様な自主企画事業の実施と運営ノウハウの向上。
- 行政、市民団体との連携をはかる。
- 国際交流に興味や意欲のある市民の参画を促進する。

③秋田市姉妹都市フォーラムと行政、市民団体との連携体制



(3) 秋田市の外国人登録人口の推移

各年3月31日現在 単位:人

| 年次 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総数 | 1,034 | 1,146 | 1,223 | 1,348 | 1,313 | 1,200 | 1,221 | 1,206 | 1,250 | 1,237 |
| 中国 | 251 | 287 | 347 | 431 | 381 | 389 | 365 | 350 | 340 | 328 |
| 韓国 | 218 | 225 | 218 | 243 | 238 | 236 | 263 | 271 | 285 | 260 |
| フィリピン | 169 | 208 | 223 | 250 | 237 | 170 | 171 | 173 | 183 | 150 |
| アメリカ | 42 | 46 | 52 | 55 | 77 | 78 | 96 | 97 | 96 | 97 |
| 朝鮮 | 116 | 110 | 95 | 92 | 84 | 76 | 61 | 56 | 57 | 49 |
| マレーシア | 32 | 33 | 31 | 11 | 32 | 28 | 37 | 40 | 44 | 42 |
| ネパール | 18 | 15 | 14 | 18 | 12 | 15 | 18 | 16 | 26 | 24 |
| イギリス | 13 | 17 | 15 | 16 | 17 | 16 | 21 | 19 | 24 | 26 |
| オーストラリア | 13 | 17 | 17 | 22 | 15 | 16 | 23 | 21 | 17 | 11 |
| タイ | 5 | 6 | 6 | 1 | 10 | 10 | 15 | 19 | 17 | 18 |
| カナダ | 16 | 15 | 17 | 19 | 20 | 21 | 19 | 17 | 14 | 11 |
| インドネシア | 25 | 47 | 68 | 47 | 37 | 17 | 11 | 14 | 12 | 13 |
| ベトナム | 3 | 3 | 2 | 4 | 6 | 9 | 16 | 9 | 11 | 76 |
| ドイツ | 5 | 4 | 3 | 3 | 4 | 5 | 7 | 3 | 7 | 10 |
| シンガポール | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 | 3 | 5 | 4 |
| バングラディシュ | 1 | 2 | 5 | 4 | 6 | 2 | 2 | 2 | 5 | 6 |
| フランス | 5 | 6 | 4 | 4 | 3 | 3 | 2 | 4 | 4 | 4 |
| ハンガリー | 10 | 6 | 8 | 7 | 7 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 |
| ブラジル | 6 | 2 | 4 | 5 | 5 | 5 | 2 | 3 | 2 | 3 |
| スペイン | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 |
| ベラルーシ | 3 | 1 | 2 | 7 | 5 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| フィンランド | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| トルコ | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 無国籍 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 79 | 92 | 88 | 105 | 114 | 98 | 82 | 84 | 95 | 101 |

※資料：「市民課の概要」（秋田市市民課）

3 経済交流関係

(1) 秋田港コンテナ取扱量

(単位:コンテナ本数)

| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 輸出 | 6,178 | 6,048 | 6,537 | 8,594 | 9,869 | 9,018 |
| 輸入 | 19,961 | 21,149 | 24,830 | 22,981 | 20,859 | 17,569 |
| 計 | 26,139 | 27,197 | 31,367 | 31,575 | 30,728 | 26,587 |

※秋田県学術国際局国際課「秋田県の国際課の現状」(平成22年度)より

(2) 秋田港コンテナ定期航路

| 就航年月日 | 航路 | 頻度 | 備考 |
|----------|------------|------|------|
| 平成7年11月 | 韓国(釜山)航路 | 週1便 | 興亜海運 |
| 平成16年4月 | 韓国(釜山)航路 | 週1便 | 高麗海運 |
| 平成17年6月 | 韓国(釜山)航路 | 週1便 | 南星海運 |
| 平成20年11月 | 韓国(釜山)航路 | 週1便 | 南星海運 |
| 平成22年1月 | 韓国・東南アジア航路 | 2週1便 | 陽南海運 |

※秋田県学術国際局国際課「秋田県の国際課の現状」(平成22年度)より

(3) 秋田ソウル国際定期便運航実績

(単位:人)

| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 利用者数 | 25,657 | 25,207 | 33,945 | 31,964 | 31,863 | 31,615 |
| 搭乗率(%) | 50.1 | 49.9 | 58.0 | 57.3 | 66.6 | 63.8 |

※秋田県学術国際局国際課「秋田県の国際化の現状」(平成22年度)より

※平成13年10月29日開設

(4) 秋田空港国際チャーター便運航実績

(単位:回)

| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 韓国 | 2 | — | — | 2 | — | — |
| 中国 | 2 | 4 | 1 | 1 | 2 | — |
| 台湾 | 13 | 45 | 43 | 10 | 16 | 20 |
| ハワイ | 4 | 1 | — | — | — | — |
| グアム・サイパン | — | — | 2 | 2 | — | 2 |
| その他 | 2 | 5 | 1 | 3 | — | — |
| 合計 | 23 | 55 | 47 | 18 | 18 | 22 |

※秋田県学術国際局国際課「秋田県の国際化の現状」(平成22年度)より

(5)秋田県内外国人宿泊者数

(単位:人)

| | | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| アジア | 韓国 | 6,193 | 8,875 | 14,735 | 17,293 | 14,218 | 16,346 |
| | 台湾 | 6,167 | 7,247 | 10,147 | 10,835 | 14,320 | 13,573 |
| | 中国 | 963 | 1,323 | 1,488 | 3,794 | 2,949 | 4,145 |
| | その他 | 1,278 | 1,427 | 1,750 | 2,988 | 3,438 | 3,626 |
| | 小計 | 14,601 | 18,872 | 28,120 | 34,910 | 34,925 | 37,690 |
| ヨーロッパ | 4,400 | 2,314 | 1,952 | 2,263 | 2,908 | 2,131 | |
| アフリカ | 483 | 489 | 496 | 634 | 544 | 282 | |
| 北米 | 1,473 | 1,142 | 1,443 | 2,154 | 2,557 | 2,663 | |
| 南米 | 670 | 286 | 661 | 425 | 711 | 123 | |
| オセアニア | 504 | 493 | 239 | 415 | 923 | 569 | |
| 不明 | 1,133 | 295 | 507 | 363 | 353 | 1,044 | |
| 合計 | | 23,264 | 23,891 | 33,418 | 41,164 | 42,921 | 44,502 |

※秋田県学術国際局国際課「秋田県の国際化の現状」(平成22年度)より

(6)訪日外国人旅行者数

(単位:千人)

| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 発行数 | 6,138 | 6,728 | 7,334 | 8,347 | 8,351 | 6,790 |

※国土交通省「平成22年版観光白書」より

(7)一般旅券発行数の推移(秋田県)

(単位:件)

| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 発行数 | 17,748 | 14,568 | 16,689 | 15,888 | 15,429 | 14,136 |

※外務省「旅券統計」より

(8)出国者数の推移(秋田県)

(単位:人)

| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 出国者数 | 46,503 | 42,805 | 42,521 | 40,485 | 38,124 | 34,743 |

※法務省入国管理局「出入国者統計」より

(9)日本人海外旅行者数

(単位:千人)

| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 出国者数 | 16,831 | 17,404 | 17,535 | 17,295 | 15,987 | 15,446 |

※国土交通省「平成22年版観光白書」より

秋田市国際交流マスタープラン
平成23年3月発行

【編集・発行】

秋田市企画調整部企画調整課

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

TEL 018-866-2033

FAX 018-866-2278

ホームページ <http://www.city.akita.akita.jp/city/pl/in/default.htm>